

|  |   |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
|--|---|--|---|----------|--|--------|--------------------------------------|-------------|---|------------|-------------------------------|
| 担当教員名  | 牧 兼充  | e-mail<br>研究室  | kanetaka@kanetaka-maki.org<br>11号館 11階 1136 研究室 |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| ゼミ名  | サイエンスに基盤をおいたイノベーション実践 (Science-based Innovation)  |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| <p>ゼミ配属に関する全ての資料 (PDF、ビデオ、申込サイトなど)は、以下の URL にまとめられています。</p> <p><a href="https://www.kanetaka-maki.org/zemi-placement/">https://www.kanetaka-maki.org/zemi-placement/</a></p> |   |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
|   |   |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| テーマ  | <p>本ゼミは、経営学をサイエンスの一分野として捉えて、組織、プロジェクト、コミュニティにおいてイノベーションを創発するための様々な手法について学びます。事実上、学生の皆さんが持つ課題について、あらゆるテーマが対象となりますが、課題解決にあたって科学的思考法を活用することにこだわります。</p> <p>本ゼミは、米国でいうところの「<u>STEM MBA</u>」(STEM = Science, Technology, Engineering and Mathematics、理系的知識)にあたるかと考えていただくと良いと思います。いわゆる古典的 MBA との差別化を行うため、ここ数年で STEM MBA は米国のビジネススクールにおいて、トップスクールを中心に急速に広まりつつあります。経営にかかわる諸問題について、いわゆる理系的知識も積極的に活用しながら、問題を解いていきます。理系的知識を活用しますが、ゼミに入る時点でのバックグラウンドが理系である必要はありません。</p> <p>経営学の諸問題について理系的知識を活用して分析できるようになることは、あらゆる産業・領域で重要となっており、学生の皆様の今後の<u>キャリアの差別化</u>のために、極めて有効であると考えています。</p> <p><u>[過去のゼミ学生のトピック]</u></p> <table border="1" data-bbox="395 1641 1414 2049"> <tr> <td data-bbox="395 1641 628 1778">「企業経営」領域</td> <td data-bbox="628 1641 1414 1778">Well-being 経営、理系経営人材、上場と企業価値、人材の流動性と企業のパフォーマンス、企業の立地とイノベーションの関係、ハッカソンにおけるチーム組成、組織におけるデザインの活用</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1778 628 1872">「人材」領域</td> <td data-bbox="628 1778 1414 1872">リスクリングの効果、人事異動と業績評価、ハイブリッド型職場環境のデザイン</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1872 628 1966">「スタートアップ」領域</td> <td data-bbox="628 1872 1414 1966">アフリカのスタートアップの成功要因、大学発ベンチャーの成功要因、医師の起業の成功要因、Initial Coin Offering の地理的要因</td> </tr> <tr> <td data-bbox="395 1966 628 2049">「エコシステム」領域</td> <td data-bbox="628 1966 1414 2049">IT 業界におけるコミュニティ分析、東京のエコシステム分析</td> </tr> </table> |  |   | 「企業経営」領域 | Well-being 経営、理系経営人材、上場と企業価値、人材の流動性と企業のパフォーマンス、企業の立地とイノベーションの関係、ハッカソンにおけるチーム組成、組織におけるデザインの活用 | 「人材」領域 | リスクリングの効果、人事異動と業績評価、ハイブリッド型職場環境のデザイン | 「スタートアップ」領域 | アフリカのスタートアップの成功要因、大学発ベンチャーの成功要因、医師の起業の成功要因、Initial Coin Offering の地理的要因 | 「エコシステム」領域 | IT 業界におけるコミュニティ分析、東京のエコシステム分析 |
| 「企業経営」領域   | Well-being 経営、理系経営人材、上場と企業価値、人材の流動性と企業のパフォーマンス、企業の立地とイノベーションの関係、ハッカソンにおけるチーム組成、組織におけるデザインの活用  |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| 「人材」領域   | リスクリングの効果、人事異動と業績評価、ハイブリッド型職場環境のデザイン  |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| 「スタートアップ」領域  | アフリカのスタートアップの成功要因、大学発ベンチャーの成功要因、医師の起業の成功要因、Initial Coin Offering の地理的要因   |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |
| 「エコシステム」領域   | IT 業界におけるコミュニティ分析、東京のエコシステム分析   |  |   |          |  |        |                                      |             |   |            |                               |

|                                |  |   |
|--------------------------------|--|---|
|                                | 「研究開発マネジメント」領域   | 複合領域研究の効果、サイエンティストのクラウドファンディング、富裕層のイノベーション投資研究者の研究テーマ変更とパフォーマンスの関係、AI分野の産学連携  |
|                                | 「サイエンス産業」領域  | 製薬企業によるライセンサーの探索、オンライン診療、製薬企業におけるサイエンティストのキャリア、製薬業界における大企業とスタートアップの関係、アントレプレナー・オリエンテーションと製薬企業                                 |
| <u>担当教員の最近の関心(年々拡大しつつあります)</u> |  |   |
|                                | 「科学技術とアントレプレナーシップ」領域<br>(研究成果が出ている)  | 大学発ベンチャー、大学を基盤としたイノベーション、スター・サイエンティスト、エコシステム、科学技術のシーズの商業化   |
|                                | 「サイエンスに基盤をおいたイノベーション実践」領域<br>(研究活動を推進中)  | デザイン思考、科学的思考法、スタートアップ戦略、日本企業のイノベーション、失敗のマネジメント、新興国のイノベーション、社会課題の解決、博士人材の活躍支援、イノベーター人材の育成、越境人材、行動経済学のイノベーション応用                 |
|                                | 「エビデンス・ベースド・マネジメント」領域<br>(今後研究領域として広げていきたい)  | Diversity, Equity, and Inclusion, Science of Learning、リスクリテラシー、フィールド実験のデザイン (技術経営、人事、企業戦略)、ハイブリッドワーク、ピープル・アナリティクス、無意識の偏見と意思決定 |
| <b>特色</b>                      | <p>本ゼミでは、以下の4点を重視します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <u>経営学は「サイエンス」の一分野</u>です。先端的なアカデミックな研究を理解するにあたって重要な「科学的思考」を身につけていただきます。自らの思考力をアップデートしたい人に向いているゼミです。</li> <li>2. 先端的かつ学術的な理論を理解する力だけではなく、<u>その理論を実務に応用していく力を養うことを重視</u>します。他のゼミよりもアカデミック寄りですし、<u>恐らくかなり高い水準でアカデミックな知識を理解することができるメンバーが集まるゼミ</u>だと思います。一方で担当教員は、アカデミックな知見を「論文」ではなく「実践」に役立てることに強い関心を持っています。「実践なき理論は空虚であり、理論なき実践は無謀である」(ピーター・ドラッカー)という言葉は、ゼミの活動方針を簡潔に示しています。</li> <li>3. ゼミを介して、修了後も有益な<u>人的ネットワークを構築</u>することを重視します。ビジネススクールの価値は、学んだ知識だけではなく、そこで得られた人的ネットワークが同様に重要であると考えています。イノベーションに関わる実務家、イノベーション分野の研究者、ビジネスを創出するサイエンティスト、起業家、データ・サイエンティスト、地方創生のキーパーソンらと交流を広げていただきます。こういったネットワークを有効に活用したいと思う人に向いているゼミであると考えます。<u>人的ネットワークを広げるためのサイエンスについても積極的に学びます。</u></li> <li>4. 国内のみならず、<u>グローバルな世界で戦うことができる力を養うことを重視</u>します。海外からのゲストもお呼びしますし、ゼミとしても積極的に海外に出かけていきます。海外に関心が強い人に向いているゼミであると考えています。</li> </ol> |   |
| <b>進行方法</b>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 通常のゼミでは、イノベーションに関連する<u>研究論文・本</u>についての輪読・議論、<u>ゲストスピーカー</u>による講義、<u>定量分析のチュートリアル</u>、先端的なテクノロジーを活用するためのワークショップ、<u>人的ネットワークを構築するため</u></li> </ul>  |   |

|                             |   |
|-----------------------------|---|
|                             | <p><u>の各種技法のワークショップ</u>、学生による研究発表、ケース・ディスカッションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ビッグデータの時代において、各自が定量分析の手法を身に付けることはとても大切と考えています。過去にこの分野を学んだことがない人でもそのスキルを身につけられるように、ゼミ内外でチュートリアルを開催しています。</li> <li>• 実社会への応用を重視するので、ゲストスピーカーを積極的に招聘します。</li> <li>• 修士論文を含めた研究の議論を深めることとゼミ・メンバーの懇親を目的として<u>年に数回、合宿</u>を行います。グローバルなネットワークを広げるために、<u>海外でのスタディ・ツアー</u>を行います。</li> </ul>   |
| <p>プロジェクト研究論文(PP)に求めるもの</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• テーマは、ご自身が<u>パッションを持つ</u>ことができ、かつご自身のキャリア構築に活かすことのできるものを選択して下さい。</li> <li>• <u>研究手法がサイエンス</u>であることに拘ります。定量研究主体ですが、定量研究に限定するものではありません。</li> <li>• ゼミで扱うテーマには特に制限は設けませんが、担当教員の得意な領域は限定的です。担当教員が得意なテーマとそうでないテーマでは、サポートできる範囲に差が出ることはご了解下さい。</li> <li>• 本ゼミでは、修士論文にコミットする学生が多いため、<u>論文の水準は比較的高いゼミ</u>だと思います。ただし、これは教員の指導が手厚いのではなく、<u>ゼミ・メンバーがより多くの努力</u>をしているから、ということをご理解下さい。</li> </ul>   |
| <p>ゼミのメンバー構成についての方針</p>     | <p>[基本方針]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 「選考にあたっての考慮点」にはまる方を優先します。ぜひ、個別面談の時に、ご自身がどのくらい合うかどうかご相談下さい。</li> <li>• 選考にあたっては、<u>メンバーのダイバーシティ(過去の経験)</u>を重視します。<u>いわゆる女性枠はありません</u>。応募状況にもよりますが、今年度の夜間主総合の男女比率を考慮し、男女のバランスが偏らないことを目指しています。</li> </ul> <p>[選考にあたっての考慮点]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ゼミは最小単位のラーニング・コミュニティです。自分の学びへのコミットメントが、自分の学びの質だけでなく、他のメンバーの学びの質にも大きな影響を与えることを理解していただける方。</li> <li>• 他のメンバーをリスペクトし、また<u>他のメンバーへ貢献</u>していただける方。他のメンバーから<u>一緒にゼミで活動したいと思われ</u>る方。</li> <li>• ネットワーク構築を重視するため、<u>ある程度の社交性</u>が求められます。他者との交流を楽しめる方に向いているゼミだと思います。</li> <li>• 過去に何を達成できたかよりも、<u>これからやりたいことのために多くの努力を惜しまない人</u>を大切にします。履修者間で今までの人生で学んできた総量による「実力差」を実感することの多いゼミだと思います。そのダイバーシティを楽しめる人に向いているゼミだと思います。特に、文系・理系あらゆる分野において、<u>fixed mindset</u> (人の能力は固定されているという考え方)ではなく、<u>growth mindset</u> (人の能力は努力で変わっていくという考え方)をお持ちの方を大切にしたいと思っています。</li> </ul> |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <ul style="list-style-type: none"> <li>理系分野の修士号・博士号取得者が多く在籍するゼミです。ただし、選考にあたって<u>理系出身者を優遇することはありません</u>。また過去の理系分野の知識をあらかじめ求めることはありません。</li> <li>海外との交流も多いため、ゼミの活動ではある程度の英語力が求められます。ただし、ゼミに入る時点での英語力よりも、英語力を伸ばしたいという熱意を重視します。</li> <li>全個別面談終了後に、ゼミ選考方針を「ゼミ選考にあたっての雑感」として公開しますので、最終的に応募するかどうかの判断に当たってご活用下さい。</li> </ul>  |
| 連絡方法         | <p>[面接のアポイントの取り方]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面談を希望する方は、12月26日(月)までに面談希望登録を以下のフォームより行って下さい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>面談希望登録フォーム</li> <li><a href="https://forms.gle/tYwnpUQ4Y5aJcrQo8">https://forms.gle/tYwnpUQ4Y5aJcrQo8</a></li> </ul> </li> <li>12月28日(水)までに、面談スロットの予約方法について、担当教員もしくは秘書よりご連絡します。こちらから12月28日(水)までに連絡がない場合、必ず再確認下さい。</li> <li>今回のゼミ選考では、第一次選考において、第三希望まで書くことになっています。従いまして、第一希望でなくても、希望する可能性がある方は、あらかじめ面談希望の申し込みをしていただくようお願いいたします。</li> </ul> <p>[お問い合わせなど]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別にご相談したい方は、<a href="mailto:kanetaka-sec@kanetaka-maki.org">kanetaka-sec@kanetaka-maki.org</a> (牧+秘書)のアドレスまでメール下さい。</li> </ul> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ見学会・ゼミ体験会などを別途開催します。面談希望登録をして下さった方に詳細を別途ご連絡します。</li> </ul> |
| 面接等の際に用意するもの | <ul style="list-style-type: none"> <li>面接にあたっては、「学生プロフィール書」を持参すると共に、ゼミへの志望理由を説明できるように準備しておいて下さい。ゼミへの質問なども用意しておいて下さい。</li> </ul>  |
| その他          | <ul style="list-style-type: none"> <li>皆さんのキャリアにとって、WBSでの2年間は人生の転換点だったと言えるように、そしてその中核はゼミだった、と言ってもらえるような場にしたいと思います。ぜひそういうゼミを一緒に作り上げていきましょう。</li> </ul>  |